

## 2022年度野球規則改正・規則適用上の解釈と要点解説

注：（ ）内数字は今回改正された7項目の符号

- (1) ミットまたはグラブにマーク類をスタンプで表示する場合、表示個所および大きさが規定された。(ただし、個人オーダーは認めず、メーカー既成の範囲内での容認)
- (2) アマチュア野球では、windアップポジションにおいて、軸足を投手板に触れて置き、自由な足については置き場所の制限がなくなった。  
高校野球では投球姿勢の混乱を避けるため、高校野球特別規則を設けて、windアップポジションでの足の位置を制限して、自由な足の位置でwindアップポジションかセットポジションかを区別することとした。
- (3) アマチュア野球では、セットポジションをとった投手は、走者が塁にいない場合、必ずしも完全静止をする必要がなくなった。  
高校野球では、走者がいないときにセットポジションで完全静止しないことにより、意図的に投球動作を変えて投球することも想定され、セットポジションからの投球動作に乱れが生じる恐れがあるため、高校野球特別規則を設けることとした。
- (4) “走路”という言葉の意味に、本文と【注】で違いがあること、また、【注】で補足説明している内容は、本文から読み取れることから、【注1】【注2】を削除した。  
(ラインアウトの規則適用上の解釈には変更はない。)
- (5) これまでは第3ストライク後の打者走者についての規定であったが、打撃途中の打者についても適用されることとなった。今回の改正では、投球を捕手がはじき、何らかの動作をした打者(打者走者)に触れ、守備する機会を失ったと審判員が判断した場合、基本的には『ボールデッド』として、走者は投球当時占有していた塁に戻り、第3ストライク目であれば、打者アウトととなる。
- (6) 本塁の衝突プレイでは、捕手のみならず、本塁のカバーに来た投手を含む野手にも適用されることが明確化された。(今までの規則適用上の解釈には変更はない。)
- (7) (2)(3)でそれぞれの【注1】を削除したことにより、巻頭(13ページ)の「投球姿勢」の解説図について、悪い例を削除し、良い例のみを掲載した。また、windアップポジションとセットポジションの違いについて説明文が追記された。  
\* 高校野球では走者の有無に関わらず〔1〕①～④はwindアップポジション  
〔2〕⑤～⑧はセットポジション